

# 八尾を歩く

# 八尾街道・奈良街道ウォーキングマップ

## 跡部神社(あとべじんじゃ)(亀井2丁目)

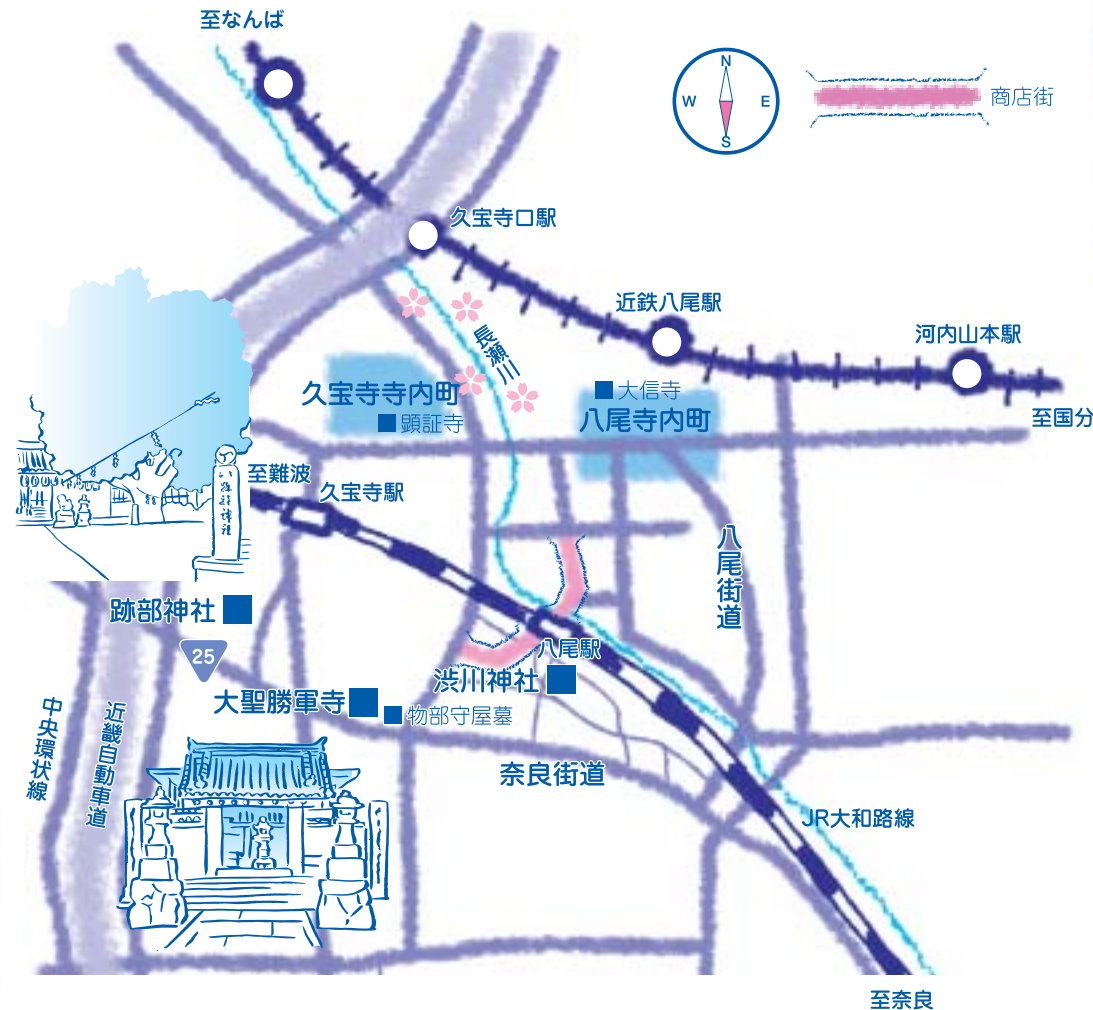
蘇我馬子が聖徳太子とともに、物部大連守屋を、その阿都の館に攻めたところ「阿都」は、淡川を中心としたこの跡部の辺りをさすものといわれています。この住地にある神社は、物部氏の一族の阿刀氏の祖饒速日命をまつっています。式内社で、阿都桑市の館とか、阿都の川辺の館の名が日本書紀に見え、当時物部氏の根拠地でした。

## 大聖勝軍寺(たいせいしょうぐんじ)(太子堂3丁目)

高野山真言宗に属し、叡福寺(太子町)を上の子といふのに対し「下の太子」といいます。聖徳太子が物部守屋を滅ぼすにあたり信貴山の毘沙門天に祈願し、四天王をまつり、その加護により戦に勝ったので、この寺を建てたといいます。本尊は如意輪観音で寺宝が多い。門前に守屋池、付近に物部守屋墓、鎧矢塚、弓代塚があります。

## 淡川神社(しぶかわじんじゃ)(植松町3丁目)

祭神は、天忍穂耳命・饒速日命。社のもと長瀬川の東岸にありましたが、天文2年(1533年)の大洪水で流失、元龜3年(1572年)、現在地へ移築されたといわれます。この地一帯は、物部氏のいたところで、この神社は古くは龍華寺の鎮守でありました。境内には樹齢一千年という、大阪府指定の天然記念物の大樟樹(くすのき)があります。



## 八尾・久宝寺寺内町

現在の八尾市の中心となっている本町地区は、慶長11年(1606)に八尾御坊大信寺を中心に町造りがなされた寺内町に源があります。当時は綿・木綿などの商家が並ぶ在郷町でもありました。また、久宝寺の町も久宝寺御坊顕証寺を中心に寺内町が形成され、商工業者などが集住した大きな町となりました。濠や土塁を巡らせた戦国時代の面影が町割に残っています。

## 八尾街道

暗越奈良街道の今里から分岐し、現在の八尾市内に入り、老原で国道25号へ合流する道です。平野から来る道は神武東征にちなみ、神武街道とも呼ばれます。また、平野から住吉を結ぶ街道でもあり、沿道に久宝寺御坊や八尾御坊、我孫子観音、住吉大社といった神社仏閣が並ぶことから、往時は参拝者で賑わいをみせました。

## 奈良街道

かつては難波と大和を結ぶ比較的平坦な道で、淡川道とも呼ばれました。現在の道は明治時代に整備された国道25号となっており、平野郷で八尾街道への道と交差し、天王寺へ結ぶため、大聖勝軍寺への参詣道から太子路とも呼ばれています。沿道には市内で一番古い天王寺屋地蔵をはじめ、大門、油掛地蔵などがまつられています。